

ゲームプログラミング

基礎編 - 第 11 回 フレームレートの制御

ゲームは、一定の間隔で画面を更新する必要があります。毎回異なるタイミングで画面を更新すると、ぎこちない動きになってしまいます。たいていのゲームでは、1秒間に60回画面を更新しており、1フレームを約16ミリ秒の間隔で描画しています。

フレームレートの制御

ゲームプログラムでは、メインループ処理(フリップの間隔)を一定のタイミングで行う必要があります。そうしないと、ゲームのスピードが処理時間や環境により異なってしまい、速い環境ほど高速に動作してしまいます。

1秒間に何回画面を更新するのかをフレームレート(FPS:Frame Per Second)と呼びます。フレームレートを設定し、これにあわせてゲームを動かします。たいていのゲームでは60FPSで、1フレームを約16.67ミリ秒間隔で処理しています。

フレームレートは、DirectDrawやDirectX Graphicsで設定できるようになっていますが、設定するとエラーになってしまうことが多いので、プログラムで実現する必要があります。

時間を取得するAPI

フレームレートを制御するには、処理にかかった時間を取得し、次のフレーム処理を開始するタイミングを取る必要があります。時間を取得するAPIはいくつかあり、それぞれ精度が異なります。これらの関数のほかに、指定した時間だけプログラムを休止し、CPU使用権をほかのアプリケーションに渡すSleep関数があります。これらを組み合わせてフレームレートを制御します。

GetTickCount関数

システムを起動した後の経過時間を、ミリ秒単位で取得します。精度は、システムタイマの分解能による制限を受けます。システムタイマの分解能を取得するには、GetSystemTimeAdjustment関数を使います。経過時間はDWORD型で保存されており、システムを約49.71日間連続して動作させると、経過時間は0に戻ります。

timeGetTime関数

システムを起動した後の経過時間を、ミリ秒単位で取得します。精度は、OSによって異なります。精度を取得するには、timeGetDevCaps関数を使います。経過時間はDWORD型で保存されており、システムを約49.71日間連続して動作させると、経過時間は0に戻ります。

WindowsNT/2000/XPでは、timeGetTime関数の精度は、環境によっては5ミリ秒以上になる場合があります。timeGetTime関数の精度は、timeBeginPeriod関数とtimeEndPeriod関数を使って設定することができます。

Windows95/98/Meでは、timeGetTime関数の精度は1ミリ秒です。timeBeginPeriod関数とtimeEndPeriod関数でどのような精度に設定しても、1ミリ秒の精度を変更することはできません。

なお、timeGetTime関数は、ライブラリ"winmm.lib"が必要になります。

QueryPerformanceCounter関数

高分解能パフォーマンスカウンタが存在する場合、そのカウンタの現在の値を取得します。パフォーマンスカウンタは0.838マイクロ秒の分解能を持ち、カウンタが1周するまで約700,000年かかります。

高分解能パフォーマンスカウンタの周波数(1秒あたりのカウント数)を取得するには、QueryPerformanceFrequency関数を使います。

課題

方法1から方法7の中から適切なものを選んでフレームレートの制御を行い、これにあわせてゲームが動くようにプログラムを変更しましょう。

方法 1

ゲーム処理のメインループの最後で、Sleep関数を使い一定時間休止し、速度を調整する方法です。

```
void TestProc()
{
    // ゲームのメインループ処理
    (省略)
    DDFlip();
    Sleep(15); // 休止
}
```

方法 2

1フレームを処理するのにかかった時間を

フレーム終了時間 - フレーム開始時間 = 1フレームを処理するのにかかった時間

という式で求めます。休止時間は以下の式で求め、Sleep関数で休止します。

1フレームにかけられる時間 - 1フレームを処理するのにかかった時間 = 休止時間
(あまった時間が負の場合は、処理落ちになります)

時間の取得には、GetTickCount関数を使います。

```
- 追加 1 -
/*****
/*                                     定 数                                     */
/*****
#define FPS          60                // 1秒間に画面を更新する回数。フレーム/秒
#define FRAME_DIRAY ((DWORD)(1000 / FPS)) // フレーム周期。1フレームあたりの最大処理時間。
                                           // 1フレームの処理時間が、この値を越えると処理落ちします

- 追加 2 -
/*****
/*                                     グローバル変数                                     */
/*****
static DWORD   g_dwStartTime = 0; // フレーム開始時間

- 追加 3 -
/*****
/*                                     フレーム構築開始                                     */
/*****
void BeginFrame()
{
    g_dwStartTime = GetTickCount();
}

- 追加 4 -
/*****
/*                                     フレーム構築終了                                     */
/*****
void EndFrame()
{
    // 休止時間を計算
    const long   IWaitTime = FRAME_DIRAY - (GetTickCount() - g_dwStartTime);

    if(0 < IWaitTime)
        Sleep((DWORD)IWaitTime); // あまった時間は休止
}

- 使用例 -
void TestProc()
{
    BeginFrame(); // フレーム開始
    // ゲームのメインループ処理
    (省略)
    DDFlip();
    EndFrame(); // フレーム終了
}
```

方法 3

方法 2 の GetTickCount 関数を timeGetTime 関数に変更したものです。

```
void BeginFrame()
{
    g_dwStartTime = timeGetTime();
}

void EndFrame()
{
    // 休止時間を計算
    const long IWaitTime = FRAME_DIRAY - (timeGetTime() - g_dwStartTime);

    if(0 < IWaitTime)
        Sleep((DWORD)IWaitTime);    // あまった時間は休止
}
```

方法 4

1 フレームを処理するのにかかった時間を

フレーム終了時間 - 前回のフレーム終了時間

という式で求めます。休止は方法 2 と同じ方法で行い、時間の取得には GetTickCount 関数を使います。

```
- 追加 1 -
/*****
/*                                     定 数                                     */
/*****
#define FPS          60
#define FRAME_DIRAY ((DWORD)(1000 / FPS))

- 追加 2 -
/*****
/*                                     フレームレート制御                                     */
/*****
void WaitFrame()
{
    static DWORD    dwLastTime = 0;    // 終了時間

    // ウェイト
    const long IWaitTime = FRAME_DIRAY - (GetTickCount() - dwLastTime);
    if(0 < IWaitTime)
        Sleep((DWORD)IWaitTime);

    dwLastTime = GetTickCount();    // 終了時間を保存
}

- 使用例 -
void TestProc()
{
    // ゲームのメインループ処理
    (省略)

    DDFlip();

    WaitFrame();    // フレームレート制御
}
```

方法 5

方法 4 の GetTickCount 関数を timeGetTime 関数に変更したものです。

```
void WaitFrame()
{
    static DWORD    dwLastTime = 0;    // 終了時間

    // ウェイト
    const long IWaitTime = FRAME_DIRAY - (timeGetTime() - dwLastTime);
    if(0 < IWaitTime)
        Sleep((DWORD)IWaitTime);
}
```

```

    dwLastTime = timeGetTime();    // 終了時間を保存
}

```

方法 6

QueryPerformanceCounter関数で時間を取得し、1ミリ秒未満の休止時間がある場合は、ビジーループで時間を消費する方法です。

ビジーループとは、以下のような「何もしない」ループのことで、

```

while(true)
    ; // なんもしない

```

ビジーループを長時間行くと、CPUを猛烈に消費し、Windowsが不安定になってしまいます。しかし、1ミリ秒に満たない時間を休止する場合は、このループでCPUを浪費させて休止します。

- 追加 1 -

```

/*****
/*                                定    数                                */
/*****
static const DWORD    FPS        = 60;           // フレーム数
static const double   FRAME_DIRAY = 1000.0 / FPS; // 1フレーム周期

```

- 追加 2 -

```

/*****
/*                                グローバル変数                                */
/*****
static double    g_dFrequency = 0.0; // パフォーマンス周波数

```

- 追加 3 -

ゲームを初期化したときに、パフォーマンス周波数を初期化します。

```

// パフォーマンス周波数設定
int64    n64Frequency;
if(0 == QueryPerformanceFrequency((LARGE_INTEGER*)&n64Frequency))
    return false;
g_dFrequency = n64Frequency / 1000.0; // ミリ秒に変換

```

- 追加 4 -

```

/*****
/*                                フレームレート制御                                */
/*****
void WaitFrame()
{
    static __int64    n64LastTime = 0;    // 終了時間

    // 休止時間取得
    __int64    n64CurrentTime;
    QueryPerformanceCounter((LARGE_INTEGER*)&n64CurrentTime);
    double    dWaitTime = FRAME_DIRAY - (n64CurrentTime - n64LastTime) / g_dFrequency;
    if(0.0 <= dWaitTime) {
        // 整数部休止
        Sleep((DWORD)dWaitTime);

        // 小数部休止
        __int64    n64CurrentTime2;
        QueryPerformanceCounter((LARGE_INTEGER*)&n64CurrentTime2);
        dWaitTime -= (n64CurrentTime2 - n64CurrentTime) / g_dFrequency;
        do {
            QueryPerformanceCounter((LARGE_INTEGER*)&n64LastTime);
        } while((n64LastTime - n64CurrentTime2) / g_dFrequency < dWaitTime);
    } else {
        // 現時間取得
        QueryPerformanceCounter((LARGE_INTEGER*)&n64LastTime);
    } // if(dWaitTime)
}

```

方法 7

方法 6 を変更し、すべての休止時間をSleep(0)のループで消費して休止する方法です。Sleep関数に0を指定すると、ほかのアプリケーションにCPU使用権を譲ります。

```
void WaitFrame()
{
    static __int64    n64LastTime = 0;        // 終了時間

    // 待機時間取得
    __int64    n64CurrentTime;
    QueryPerformanceCounter((LARGE_INTEGER*)&n64CurrentTime);
    const double    WAIT_TIME = FRAME_INTERVAL - (n64CurrentTime - n64LastTime) / g_dFrequency;

    // ループで時間を消費
    do {
        Sleep(0);
        QueryPerformanceCounter((LARGE_INTEGER*)&n64LastTime);
    } while((n64LastTime - n64CurrentTime) / g_dFrequency < WAIT_TIME);
}
```

・ 付録

以下のDrawFPS関数は、フレームレートを表示する関数です。DDFlip関数の直前に実行すると、画面左上にフレームレートを描画します(DDUtilsのDDGetDC関数とDDReleaseDC関数が必要です)。

```
/*
*****
*/
/*
*****
*/
void DrawFPS()
{
    static int    nFPS        = 0; // FPS
    static int    nFPSCnt    = 0; // フレームカウンタ
    static DWORD  dwLastTime = 0; // 終了時間

    nFPSCnt++;
    const DWORD  dwTime = timeGetTime();
    if(dwTime - dwLastTime >= 1000) {
        nFPS        = nFPSCnt;
        nFPSCnt    = 0;
        dwLastTime = dwTime;
    }

    // FPS描画
    HDC  hDC = DDGetDC(DDS_BACKBUF);
    if(NULL != hDC) {
        TCHAR  szMes[8];
        wsprintf(szMes, "FPS:%3d", nFPS);
        TextOut(hDC, 0, 0, szMes, lstrlen(szMes));
        DDReleaseDC(DDS_BACKBUF);
    }
}
```